

史料群番号 39

史料群名	うるまごんばち 潤間権八家文書	旧所蔵者	潤間権八
探訪時住所	千葉県市原郡千種村今津朝山		
現在の住所	千葉県市原市今津朝山		
探訪年月	昭和26（1951）年9月		
史料の年代	明治9（1876）年～昭和4（1929）年	史料の総点数	119点
年代の内訳	近代 119点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「昭和五十年三月 水産庁水産資料館所蔵古文書目録- 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」「平成十七年 水産総合研究センター所蔵古文書目録-千葉県（房総半島沿岸地域）関係史料- 水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

探訪時の整理に用いられたと見られる「祭魚洞書屋収蔵古文書」の封筒に寄贈と記されている。一方「潤間一也家」から探訪したことを示す書類があり、平成16年度の目録編集作業の際、現地調査を行って、本史料群が潤間一也氏によって寄贈されたことを確認した。水産資料館の昭和50年の目録に掲載されている史料は64点で、平成17年の目録では119点になっている。これは、整理の方法がより詳細になった結果、点数が増加したためで、史料の混入などによるものではない。

史料群の概要

探訪地の今津朝山については「荒井太郎家文書」の「史料群の概要」参照。
史料は近代のものが多く、漁業、水産物流通に関する史料が4割近くを占める。今津朝山は、現在は埋め立てが進み、漁業はほとんど行われていないが、昭和37年以前は青柳、蛤、浅蜷などの貝類の水揚げが多い地域だった。内湾漁業としては八手網による鯛の漁獲もかなり多かった。昭和40年代以降、京葉工業地帯の造成による埋立の進行で、これらの水産業はほぼ姿を消した。史料は、「取高帳」など、漁関係の帳簿が相当数あり、ほか貝漁についての帳簿も含まれている。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

